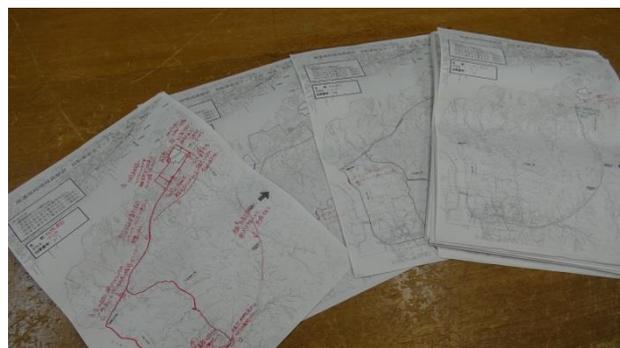


<b>活動名</b> 自転車文化の創造を担う大学生・高校生を対象とした次世代リーダー育成プログラム	団体名	ひろしま輪輪プロジェクト
	地域	広島県尾道市
	代表者	代表 茂田 幸嗣
	支援金額	20万円
<b>活動概要</b>		
<p>1. 活動の背景： 広島で多くの人が自転車を利用しているが、歩道をジグザグに歩行者を縫うように走ったり、夜間の無灯火やスマホしながら運転など、自転車のルールやマナーの啓発が喫緊の課題となっている。一方で、自転車の走行空間が不十分であるなど、自転車を適正に利用できる環境の整備も必要とされている。これらの課題を解決していくための鍵となるのが、若い世代である。若者は自転車の利用率が高く、ルール違反や危険走行なども犯しがちであるが、教育と啓発次第では社会の一員として自覚を持ち、模範的な走行や積極的に社会に働きかける可能性を持つ。そこで、当会では自転車文化の創造を担う次世代リーダーの育成に取り組むこととした。</p> <p>2. 活動の目的と方針： ここでいう自転車文化とは、社会の誰もが正しく安全に自転車に乗ることができ、日常生活での移動が自転車を用いて効率的効果的に行うことができることを基本とする。更には移動手段としてだけではなく、スポーツや旅行など趣味や自己実現の手段として自転車が活用され、楽しく健康で生きがいに満ちた社会が実現されるための社会の仕組みや人々の意識・習慣をイメージする。そのような自転車文化を創造し、継承・発展させていくためには、若い世代が積極的に参画し、中心的な役割を担っていく次世代リーダーを育成することを、本活動の目的とする。</p> <p>3. 活動の具体的内容： 自転車文化を担う若いリーダーの育成を目的として、高校生や小学生の PTA 役員に学生による地域の自転車にとっての危険箇所調査の実施を提案。実施に当たり助言や情報提供、調査用の地図の作成・提供等の側面支援を実施した。</p> <p>◆実施時期 2015年1月～現在 尾道高校 2015年6月～現在 長江小学校</p> <p>◆参加人数 尾道高校地域貢献部 6名、尾道高校生 99名 長江小学校 PTA 役員 3名、長江小学校生徒 50名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員：約 160名</p>		



地域貢献部との調査に向けた打ち合わせの風景



調査結果の取りまとめ結果

### 作成例(書き込み方)



調査用地図 記載例



地図を作成する長江小学校の生徒

#### ◆実施に伴う効果

(尾道高校)

- ・地域貢献部の学生が、危険箇所調査の経験を経て、自転車文化を担うリーダーとしての資質が向上した。
- ・地域貢献部顧問の教員が、当該活動の経験を経て、自転車文化を担うリーダーの育成するためのノウハウを身につけた。
- ・危険箇所調査に参加した生徒の交通安全の意識が向上した。

(長江小学校)

- ・PTA 役員が、自転車文化を担うリーダーの育成するためのノウハウを身につけた。
- ・危険箇所調査に参加した生徒の交通安全の意識が向上した。

#### ◆苦勞した点

事業に協力いただいた尾道高校地域貢献部及び長江小学校 PTA は、それぞれ自らが主体となって事業を進めたいという思いを持ち、当会は共同実施者という立場には立てず、調査方法の情報提供や、助言、調査用地図の作成・提供等といった側面支援という形での参画に止まらざるをえなかった。このため、当会によるスケジュール管理ができず、当会の考える方法と異なる方法により調査が行われたり、これらの団体が行う他団体との連携・協議に当会が参加できなかつたりしたため、当会の計画の達成率は5割程度となった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・自転車危険箇所マップはまだ素案の段階であり、今後調査の結果得られた意見の内容の確認や、地図の表記方法の精査等の作業を経て完成させる必要がある。
- ・自転車危険箇所マップ完成後は、役に立ててもらえるところに配布したり、危険箇所マップの説明会を開催したりするなどし、周知していく必要がある。
- ・関係機関への要望活動の基礎資料としても活用していきたい。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

事業の実施主体となれず、側面支援という形で事業に関わることの難しさを痛感した。